図書館だより

12 月号 2017

可児市立図書館

Kani City Library

2 0 1 7 年 の 人 気 本

予約が多数かかった人気本ランキングです。【期間:平成28年11月26日~平成29年11月25日】

	図 書 名	著者	出版者		図書名	著者	出版者
1	蜜蜂と遠雷	恩田陸	幻冬舎	11	みかづき	森絵都	集英社
2	九十歳。何がめでたい	佐藤愛子	小学館	11	BUTTER	柚木麻子	新潮社
3	騎士団長殺し 第2部	村上春樹	新潮社	13	罪の声	塩田武士	講談社
4	騎士団長殺し 第1部	村上春樹	新潮社	14	この世の春 下	宮部みゆき	新潮社
4	アキラとあきら	池井戸潤	徳間書店	14	君の膵臓をたべたい	住野よる	双葉社
6	素敵な日本人	東野圭吾	光文社	16	コンビニ人間	村田沙耶香	文芸春秋
7	マスカレード・ナイト	東野圭吾	集英社	17	コーヒーが冷めないうち に	川口俊和	サンマーク出 版
8	月の満ち欠け	佐藤正午	岩波書店	18	陸王	池井戸潤	集英社
9	劇場	又吉直樹	新潮社	19	雪煙チェイス	東野圭吾	実業之日本社
9	この世の春 上	宮部みゆき	新潮社	20	盤上の向日葵	柚月裕子	中央公論新社

職員おすすめの本 2017私が選んだ3冊

2017年を振り返って、今年出版された本や話題になった本などの中から、図書館職員が3冊選びました。

『影裏』

沼田真佑/著(文藝春秋) 小説 913.6 ヌマ

突然会社を辞めた親友が震災で行方不明になってしまいます。必死に探し回った末、友人の裏の顔を知ることとなる主人公。深い問題を扱いながら、日記のように淡々と進んでいきます。芥川賞受賞作品。心に何か残してくれるでしょう。

『アルチンボルドアートコレクション』

リアナ・デ・ジローラミ・チーニー/著 (グラフィック社) 美術 723.3 fl

今年、話題になったアルチンボルド展。観に行けなかった方も多いと思います。花や果物などを組み合わせて 人物を描き出す不思議な絵。解説と詳細な部分を見ながら、一度鑑賞されてはいかがでしょうか?

『古都再見』

葉室麟/著(新潮社) エッセイ 914.6 ハム

名刹であったり・・路地のカフェであったり・・京都の何気ない風景が作者の目を通すと、歴史の場面が浮かんだり、人物や文豪たちの息遣いを感じることができます。 あなたも古都再見ができるかもしれません。

(本館 濱口)

『ぐるぐる♡博物館』

三浦しをん/著(実業之日本社) 総記 069.0 博物館って暗くて古くて退屈そう…そんなイメージ をお持ちの方にこの 1 冊を。こだわりすぎな展示が並ぶ マニアックなテーマパーク、それが博物館。著者が心か ら楽しんでいるのが伝わってきて、この本をガイドブッ クに旅の計画を立ててみたくなります。

『今日はヒョウ柄を着る日』

星野博美/著(岩波書店)エッセイ914.6 ホシン

ボケない、終活のススメ、遺言を書こう…。これらの 文言を発しているのは高齢者本人ではなく、まだ高齢者 になっていない世代だという著者の指摘が印象に残り ます。タイトルにあるヒョウ柄についての考察も面白 い。度々登場する母親の、パンチの効いた発言が爽快で す。

『息子と狩猟に』

服部文祥/著(新潮社)小説 913.6 ハツ

登山家であり猟師でもある著者だからこその作品。極限状態で、ひとは人間界の秩序を守る必要があるのか? 一平穏な世界に生きる私たちを、自分の命を自分で守る しかない場所へ拉致して、ひ弱な倫理観を揺さぶってく る、そんな錯覚を覚える迫力の一冊です。

(帷子分館 熊崎)



『宮廷画家ルドゥーテとバラの物語』

中村美砂子/著(青幻舎)芸術 723.3 м

「花のラファエロ」「バラのレンブラント」と言われた宮廷画家ルドゥーテはバラを愛し、生涯描き続けました。82点の作品と、彼をとりまくマリー・アントワネットやナポレオン皇妃ジョゼフィーヌなどの物語を織り交ぜた「物語つき画集」です。

『言葉の羅針盤』

若松英輔/著(亜紀書房) エッセイ 914.6 ワカ

人生の荒波に遭遇して先が見えなくなったら、どうやって進路を見つけるのか。そうしたとき、羅針盤となり助けてくれるのが言葉です。言葉との出会いがいかに自分の人生の行方を指示してくれたかを、古人の言葉や詩、歌を交えて語ります。

『吉本興業を創った人々』

堀江誠二/著(PHP研究所) 芸能 770.6 x

創業 105 年。「笑い」を生み出すため、絶え間ない時代への挑戦を続ける吉本興業の軌跡と、それを支えてきた人々の波乱万丈のドラマが描かれています。NHK 朝の連続 TV 小説『わろてんか』のモチーフとなった作品です。 (桜ケ丘分館 成瀬)

『物語のティータイム』

北野佐久子/著(岩波書店)文学909 計

子どもの頃に読んだ物語の中に出てきた、「謎のお菓子」。この本はさまざまな物語に出てくる料理が満載。 私は『ライオンと魔女』のターキッシュディライトがベスト・オブ・謎でした。それが写真とレシピまで載っているなんて!皆様もきっと「あの本の、あれが、これか!」という驚きと喜びが味わえるのでは?

『ライバル・オン・アイス』 1~3

吉野万理子/著(講談社)児童文学 913 3

児童書といえども、なかなか現実的です。フィギュアスケートは、テレビの華やかな世界だけでなく、お金も時間も、親の手助けも必要。そして同年代の子(とその親)たちの嫉妬やいじめ。主人公の美馬は、それらの障害を「スケートが好き!」という一途な思いだけで超えていきます。

『[新装版]ひふみんの将棋入門』

加藤一二三/著(産経新聞出版)将棋 796 カ

藤井聡太四段の衝撃のデビューにより、いまや空前の 将棋ブーム。TV 番組ではお茶目な天然ぶりを発揮して いる加藤一二三九段ですが、文章もとてもお上手。基本 ルールや役立つ法則をわかりやすく説明した後、三手詰 めを中心に詰将棋。これ一冊で随分上達しそうです。70 歳から始めても大丈夫だそうですよ。

(帷子分館 瀬尾)

2017私が選んだ3冊

『世界一まじめなおしっこ研究所』

金子大輔/著(保育社)医学491.3 加

生物学を軸に、行動学、物理学、心理学、社会学、文学、民俗学などへも手を広げつつ、「おしっこ」の大切さと不思議さを、豊富なイラストとともにまじめに楽しく書かれた科学の本です。

『DVD でもっと上達! 社交ダンス魅せるラテン』

田中淳/著(メイツ出版) ダンス 799.3 デ

社交ダンスの競技種目であるラテンダンスの上達の コツを紹介。ステップの流れを写真と足型のイラストで 具体的に表現され、リアルスピードとスロー映像を収め た DVD 動画とともにテクニックが解説されています。

『日本茶の図鑑』

日本茶葉中央会/監修(マイナビ出版)料理 596.7 = 日本茶ってどんなお茶?日本茶の基礎や茶葉の種類、全国地域別の茶葉の紹介、お茶の淹れ方、日本茶の歴史やマナーなど日本茶のことが、豊富なカラー写真とともに紹介されています。色々試して好みのお茶を見つけ、美味しいお茶でほっとひと時過ごすのもいいですね。

(帷子分館 溝口)

『渇きと偽り』

ジェイン・ハーパー/著(早川書房) 小説 933.7 小 干ばつに苦しむ豪州の片田舎で起きた一家惨殺事件。 その捜査を進めるうち、ルークはかつて彼がこの土地を 去ることになった原因とその苦い記憶を呼び起こして いく。閉鎖的な社会の中で人々が隠してきた過去と秘密 が交錯する。読み応えのあるミステリーです。

『未来の年表』

河合雅司/著(講談社)社会334.3 加

急速に進む人口減少によって、日本はどのような問題に直面するのか。日本の未来を時系列に沿って体系的に解き明かす。第一部の「人口減少カレンダー」を見ると危機感をあおられるが、第二部で10の処方箋が示される。この問題にどう関わっていくべきか、真剣に考えさせられます。

『新しい分かり方』

佐藤雅彦/著(中央公論新社)美術 757 サ

Eテレのピタゴラスイッチでお馴染みの佐藤雅彦さんの著書。写真や絵図をふんだんに使用し、本という紙メディアを超えた表現方法で、体験的に読者に考えさせるように工夫されています。「分かる」ということはどういうことなのか、ものの見方を示してくれる良書。

(帷子分館 磯道)

『応仁の乱』 呉座勇一/著(中央公論新社)歴史 210.4 🗂

なぜか今年話題になった応仁の乱。始まりも終わりも戦いの目的も曖昧で、昨日の敵が今日は味方になったり、 その逆だったり。関係する登場人物がたくさんいてよくわからないあたりは、現在の日本の政治ととてもよく似て いました。

『国宝・運慶・北斎』 (日経BP社) 美術 706.9 コ

国宝の制度がスタートして今年で120年。あざやかな写真とともにわかり易く解説してくれている本です。可児市に馴染み深い志野茶碗も載っています。国宝に指定されている茶碗は8点でそのうち「国産品」は志野茶碗を含む2点しかないそうです。

『孤独のすすめ 人生後半の生き方』 五木寛之/著(中央公論新社) [エッセイ 914.6 イツ

人生を四つの季節にたとえて考え、高齢期にさしかかってからのシフトダウンする生き方について書かれています。「年をとったらこう生きなければならない」というのではなく、自分なりの楽な生き方のヒントになるかもしれません。 (本館 饒村)

『みみずくは黄昏に飛びたつ』

川上未映子/訊く 村上春樹/語る (新潮社) 文学 910.2 4

主に「騎士団長殺し」の内容についての対談。準備万端で臨んだ、古くからの村上ファンである川上未映子の小説執筆に関する質問に対し、「覚えていない」、「突然頭に浮かんだ」、「そんなこと書いたかな」などど飄々と答える村上春樹だが、作家としての基本的な考え方、具体的な執筆方法もわかって興味深い。

『草花たちの静かな誓い』

宮本輝/著(集英社)小説 913.6 計

大切な我が子の身を守るために、その子を遠くへ手離すことができるだろうか。ロサンゼルス在住の亡き叔母の財産を相続した主人公。叔母の家に滞在するうち「からくり箱」のなかから6才で白血病で死んだと聞かされていた従妹につながる不思議な手紙をみつけ、謎解きをはじめる。

『ダム大百科』

萩原雅紀/監修(実業之日本社) 技術 517.7 が 最近マニアが増えているダム。その基本的な知識から 「ダムカレー」や「ダムカード」など、マニアックな面 まで網羅した本。特にダムカレーの詳細な写真入り「施 工手順」は一見の価値あり。ダムグッズの中にダムぐる み(ダム型のぬいぐるみ)まであるのにはびっくり! (本館 可児)

『人生を変えてくれたペンギン』

トム・ミッチェル/著 (ハーパーコリンズ・ジャパン)

科学 488.6ミ

海辺で高校教師がめぐり会ったのは、油にまみれた1羽のペンギンだった。ペンギンと共に過ごす学校生活は、驚きと喜びの毎日。政情不安の続く1970年代のアルゼンチン、希望という贈り物をくれたペンギンの物語。

『月の満ち欠け』

佐藤正午/著(岩波書店)小説 913.6 サト

月の満ち欠けのように生まれ変わり、あなたに会いに行く。瑠璃という名前をキーワードにしてつながっていく魂。ラブストーリーでありながら、ホラー要素もあり。引き込まれて一気読みしてしまう一冊。

『みみずくは黄昏に飛びたつ』

川上未映子/訊く 村上春樹/語る (新潮社) 文学 910.2 ム

自らが村上春樹の愛読者である川上未映子氏がインタビュアーとなり、読者目線で質問をぶつける。『騎士団長殺し』についても多く語られているので、あわせて読むとより楽しめます。村上春樹の本音トークがぎっしり詰まった作品。

(桜ケ丘分館 春日井)

『アキラとあきら』

池井戸潤/著(徳間書店)小説 913.6 イケ

自分の運命と戦いながら成長してきた、二人のアキラ。彼らが出会い、かつてない試練を向かえた時、二人はその逆境を乗り越えることができたのか?この著者の真骨頂といえば、逆境を乗り越える時の痛快さですよね。自分の運命に立ち向かう、二人のアキラの人生をお楽しみください。

『わたしたちが孤児だったころ』

カズオ・イシグロ/著(早川書房) 上海の租界で暮らしていたバンクスは、両親の謎の失 踪により 10 歳で孤児となった。イギリスに戻り、成長 して探偵になった彼は、日中戦争が勃発し混迷をきわめ る上海へ舞い戻る。バンクスは両親を見つけ出し、失踪 の真実を知ることができたのか?一人の人間の失われ た過去と記憶の旅。

『くらべる値段』

おかべたかし/文(東京書籍) 産業 675.1 オ

¥270と¥1,000の海苔、¥5,000と¥500,000の盆栽など、同じ品目なのに、なぜこんなに値段が違うのか、疑問に思ったことはありませんか。それは、安いものには努力があり、高いものには夢があるからなのです。この本を読めば、値段の意味と理由を知ることができますよ。

(本館 篠田)

『実とタネキャラクター図鑑』

多田多恵子/著(誠文堂新光社)料学 471.1 列 道端に咲くたんぽぽが風に乗って仲間を増やしてゆくのは誰もが知っています。この本では、様々な実とタネの形態を上手くいかしてキャラクター化し、その特徴や名前の由来、言い伝えなど面白い情報が満載なので子どもさんと一緒に見ても楽しいと思います。読み終えれば、近くの公園など散歩に出掛けたくなりますよ。

『こぽこぽ、珈琲』

野呂邦暢 他/著(河出書房新社) エッセイ 914.6 コポ 友達と会った時は、まず珈琲。しかも「美味しい珈琲が飲みたいね。」が合言葉のように私の生活になくてはならないものになっています。31 人の著者が珈琲との出会いなどご自身とのエピソードを綴ったエッセイです。タイトルの「こぽこぽ」から、珈琲が出来上がる音と香りが漂ってきそうな気がしませんか。

『中世美濃遠山氏とその一族』

横山住雄/著(岩田書院) 伝記 288.3 3

著者は、各務原市で生まれましたが恵那郡に心引かれて研究されました。この本は、遠山氏を通史的に捉え森長可や武田、織田との関わりにも触れて書かれています。今年9月「ぎふの宝もの ひがしみのの山城」に美濃金山城跡と共に苗木城跡・岩村城跡が認定されたのを機に手に取ってみました。 (本館 土谷)

『あるかしら書店』 ヨシタケシンスケ/著(ポプラ社) 芸術 726.63

ョシタケシンスケさんの絵がとにかく可愛くて楽しい。店主がお客さんに「こんな本あるかしら」と尋ねられて「ありますよ」と出してくる数々の本。ヘンな本ばかりなのになぜか本というモノがいいなと思えてきます。

『うつくしい日々』 蜷川実花/著(河出書房新社) 芸術 748 =

「世界はますます美しく、眩しく見えた」という写真家が「目にあわせて露出をあげて」写した身の回りの風景。 合間に挟まれる文章には、死に向かう演出家の父のことが書かれています。眩しくてうつくしい写真集です。

『レイチェル・クーの小さなフレンチキッチン』 レイチェル・クー/著(世界文化社) 料理 596.2 列 BBC 制作の番組が NHK で放送されたので著者の名前をご存知の方もいらっしゃるかと思います。今回はフランス各地の料理をアレンジしています。レシピは難しめですが、鮮やかな写真は見るだけで楽しく、添えられる文章も素敵で、フランス料理紀行の気分が味わえます。 (本館 橋本)

『わたしを離さないで』 カズオ・イシグロ/著(早川書房) 外国文学 933.7 d

今年のノーベル文学賞受賞作家の作品。ある役目を与えられた者たちが、寄宿生活を経て世に送り出され、自分の運命に抗うことなく生きていく様子が静かに伝わってきます。彼らの誕生、役目、その運命の果てにあるものを思うとやるせない気持ちになりました。

『鳥類学者だからって、鳥が好きだと思うなよ。』 川上和人/著(新潮社)科学 488.0 カ

予算を獲得し、体を鍛え、万全の準備と心構えで調査に行く先は離島・火山・ジャングル。待ち構えるのは吸血カラス・空飛ぶカタツムリ。噴火によって調査中の島が消失なんてことも。こんなに愉快な理系の本、気分が落ち込んだ時におすすめです。

『嘘の木』 フランシス・ハーディング/著(東京創元社) 外国文学 933.7 /

嘘を養分として実をつける木。その実を食べると真実がわかる。父親の死の真相を知るために、偽りを重ねていく主人公。嘘に踊らされる人々。見えてきた真実。女性が表舞台に出にくかった時代に、自分の生き方を模索する主人公に胸が熱くなります。 (本館 林)

『団塊の後 三度目の日本』

堺屋太一/著(毎日新聞出版) 小説 913.6 動 舞台は 2020 年東京オリンピックを終え不況真っ只中 の日本。危機的状況脱却のため、若き総理大臣が大胆な 改革案を掲げ、政財界の有識者たちが熱論を繰り広げる 圧巻の予測小説です。どこかで聞いたことのあるような 登場人物の名前も、ユーモアがあって楽しめます。

『全国の犬像をめぐる 忠犬物語 45 話』

青柳健二/著(青弓社)産業645.67

作者が全国の犬像をめぐり、それにまつわる伝説や物語について書いた本です。雪崩から主人を救った犬、飼い主の代わりにお参りをした代参犬、怪物から村人を救った犬などのエピソードと共に、凛々しい犬像の写真も掲載されており、実際に訪ねてみたくなります。

『西の魔女が死んだ(梨木香歩作品集)』

梨木香歩/著(新潮社)小説 913.6 が

主人公と真剣に向き合い、優しく語りかけるおばあちゃんの言葉のひとつひとつが、心に響く作品です。初刊から23年を経て、主人公の回想、おばあちゃんのモノローグ等、新たに三作の短編が収録され、より深く物語を味わうことができます。 (帷子分館 倉知)

『宝石鳥』

鴇澤亜妃子/著(東京創元社) 小説 913.6 时 神の遣い「宝石鳥」の子孫が治める島。物語は島の女王が島外の男性と恋に落ち、出奔した事から始まります。女王の肖像画家、側近、島の舞姫、様々な人々の想いと軌跡が一つになり新たな伝説が織り上げられて…。東南アジアを思わせる極彩色の世界と宝石鳥伝説が持つ仄暗さとの対比が印象に残る作品でした。

『星戀』 * 底本は 1954 年中央公論社刊行

野尻抱影、山口誓子/著 (中央公論社) エッセイ 914.6 /ジ

「冥王星」をはじめとする星々の和名の命名者である 野尻抱影と、星を愛し多くの星の句を詠んだ山口誓子。 二人の偉人が夜空を眺めて語り合う形でまとめられた 随想句集です。本を開けば星たちへの憧憬と敬愛にあふ れた美しい言葉がこぼれ、満点の星空の下にたたずんで いる様な気持ちになれる、心洗われる1冊です。

『中学校の地理が1冊でしっかりわかる本』

宮路秀作/著(かんき出版)地理 290 ミ

大きめの文字、豊富なカラー図版入りで教科書の様に分かりやすい構成になっています。日本は国土面積の広さ順で100位以内である、インドでIT 産業が盛んである理由、アフリカの国境線が直線的である理由など、「へぇ~!」と驚く情報もあり、世界情勢の理解にも役立つ本。受験生だけでなく大人にもおすすめです。

(帷子分館 福井)

『そして、ぼくは旅に出た。』

大竹英洋/著(あすなろ書房) 「エッセイ 914.6 材 写真家志望の若者が、夢の中で出会った灰色のオオカミに導かれ、異国の写真家に弟子入りするため旅に出る自伝エッセイ。誠実で平易な文章によって語られる著者の異国の経験は読みごたえがあり、本の中で旅をしているような感覚を味わえます。

『鳥類学者だからって、鳥が好きだと思うなよ。』

川上和人/著(新潮社)科学488.0加

鳥類学者の知られざる命がけの日々を軽妙な文章で面白おかしく描いた活動記録。読み物として面白いだけではなく、野鳥研究の過酷さと奥深さ、そして鳥類の勉強にもなる一冊です。ただ、鳥よりも虫との戦いの話が印象に残りました。

『人生を狂わす名著 50』

三宅香帆/著(ライツ社)総記 019.9 %

文学研究のかたわら書店員として働く現役京大生によるブックガイド。テンポのよい語り口と私小説のような書評、そして思いもよらない考察が面白い、万人を読書へと駆り立てるほどの情熱が込められた一冊です。

(本館 多賀)

『銀河鉄道の夜』

宮沢賢治/原作(学研プラス) 児童文学 913 ミ 芝田勝茂さんが現代語表記して今年出版されたものですが、私は昔からこの作品が持つ情景の美しさ、世界観が好きだったので改めて読み直してみました。少年ジョバンニと親友カムパネルラが銀河鉄道に乗って旅をします。それぞれの停車駅で乗り込んでくる様々な人たち。尊い自己犠牲の愛を描いています。

『ミュージアムの女』

宇佐江みつこ/著 (KADOKAWA) 芸術 706.9 か 美術館の隅っこに座っているあの人達(監視員さんと 言います)はこんなことを考えていた?!監視員さんの 美術館でのお仕事の様子を4コマ漫画で紹介。実はこの

美術館でのお仕事の様子を4コマ漫画で紹介。美はこの作品、岐阜県美術館がネット上で連載しているものをまとめたもので、彼・彼女らのユニークな裏話やエピソードが存分に楽しめますよ。

『ニッポンのおみくじ』

鏑木麻矢/著(グラフィック社) 宗教 176.8 別 今年もあとわずかです。今は全国の神社などにおいてバリエーション豊かなおみくじが引けますね。この本ではおもちゃの付録付きのもの、可愛い人形や食品に詰められたものなど、地域魅力満載のおみくじの数々を雑学と共に解説されています。 古来の文化の再発見もでき、日本各地の神社仏閣の歴史にも触れられることから、歴史・旅好きの心もくすぐる一冊です。

(桜ケ丘分館 小島)

2017私が選んだ3冊

『風と共にゆとりぬ』

朝井リョウ/著(文藝春秋) 上ッセイ914.67州 笑える話が満載。例えば、朝井リョウと作家・柚木麻子による結婚式での余興の最中に、席に座っていた女性が椅子から離れた。「スプーンを落とした」という朝井説と「笑って椅子から転げ落ちた」という柚木説に分かれたが…。後で、突き抜けた、衝撃的な、呆気に、ザワついた、という感想の礼状が届いた……。

『シャーロック・ホームズ対伊藤博文』

松岡圭祐/著(講談社)小説 913.6 マツ

あの有名な名探偵、シャーロック・ホームズが、モリアーティ教授を滝の底へ落とした後、自分の死を装い、日本へ逃亡した。伊藤博文に世話になりながら、「大津事件」の真相を明らかにする。ホームズの裏を読む推理力もさることながら、伊藤博文の毅然とした態度・言動に法治国家の在り方を考えさせられる。

『十五歳の戦争』

西村京太郎/著(集英社) 実録 916 ⇒

少年・矢島喜八郎は、エリート将校養成機関「東京陸軍幼年学校」に入学した。15歳の春だった。後に作家となる西村京太郎が初めて書き下ろした自伝的ノンフィクション。日本人が戦争に向かない理由を語る言葉には、重みがあり、説得力がある。

(桜ケ丘分館 松浦)

『サピエンス全史』上・下

ユヴァル・ノア・ハラリ/著 (河出書房新社) 歴史 209 N

「農業革命は狩猟採集社会よりも過酷な生活を人類に強いた、史上最大の詐欺だった」と明解に示して話題になった本書。こうまでして繁栄を築いた人類は、果たして幸福と呼べるのか。人類史を客観的に見通すのに大変役立つ本です。

『シンギュラリティは近い [エッセンス版]』

レイ・カーツワイル/著 (NHK 出版) 総記 007.1 加

本書は2005年に刊行された本の主要概念を編集したエッセンス版です。人工知能(AI)をはじめとしたテクノロジー進歩が著しい昨今、本書の未来予測は現実味を帯びつつあります。今後の人類に起こることはどうやら我々の想像をはるかに超える事態らしい。2045年まで生きる予定の方は読んだほうがいいかも。

『リアル人生ゲーム完全攻略本』

架神恭介、至道流星/著(筑摩書房)<u>児童ヤンが</u>159 加 人類の未来を考えると楽観論と悲観論に振り回され がちになりますが、自分の行く末を冷静に考えるには、 「人生はゲーム」「我々はプレイヤー」と見なしてしま ったほうがいいのかもしれません。本書を参考にあなた も理想のプレイングを! (本館 長谷川)

きりとり

あなたも書いて みませんか?

2017年に私か読んだこの本! を募集!

あなたが 2017 年の 1 年間に読んだ本の中で、よかったもの・人におすすめしたいものを書いてください。 かんたんな内容の紹介文も書いてください。出版年の古い本や図書館にない本でも OK です。選書の参考にします。また、内容を確認のうえ、可児市立図書館ウェブサイトで紹介させていただきます。

【 本のタイトル・書名 】	【書いた人・著者名】	【出版社】						
【 紹介文 】								
【 あなたのお名前								
(ペンネームも可) 】								

しめきり:1月末日

この用紙を本館・各分館に備え付けの「私が読んだこの本!アンケートボックス」に入れるか、FAXで本館までお送りください。【可児市立図書館本館FAX 0574-62-5303】

あたらしく入った本

情報•読書

007.3/ゾ/ 退屈すれば脳はひらめく

マヌーシュ・ゾモロディ/著 NHK 出版

退屈しないとクリエイティブにはなれない。でも、今の世の中はデジタル機器のせいで退屈する時間がほとんどない。スマホを手放して退屈を受け入れ、ひらめく人に生まれ変わる1週間のプログラムを紹介する。

015/3/ 子どもはハテナでぐんぐん育つ

調べ学習研究会「調之森」/編著 岩

小、中、高校の教科学習、道徳、特別活動、総合的な学習など、図書館を利用した多様な調べ学習の取り組み を紹介。大人を対象とした実践も取り上げる。コピーして使える「ドーナツチャート」と「記録カード」付き。

歷史•伝記

210.4/ミ/ 享徳の乱

峰岸純夫/著

講談社

享徳3年、鎌倉公方・足利成氏が関東管領の上杉憲忠を誅殺した事件を発端として内乱が発生。やがて京へと飛び火して「応仁・文明の乱」を誘発した…。関東で起こった「享徳の乱」が戦国時代の幕開けであることを論じる。

281.6/キ/ 京近江の武将群像

京都新聞社/編

サンライズ出版

近江を制する者は天下を制す-。細川幽斎、斎藤道三、浅井長政、井伊直政、明智光秀、伊達政宗、 上杉謙信、石田三成…。戦国の京近江を駆け抜けた武将26名の生涯を追う。

社会

335.2/ナ/ ナゴヤが生んだ「名」企業

日本経済新聞社/編

日本経済新聞出版社

混迷の時代を生き抜く知恵を持ち、進取の精神と伝統力で勝ち続けるナゴヤ経済圏の企業。愛知、岐阜、三重の企業約60社の強みと今後の課題を紹介する。

366.4/ヤ/ 同一労働同一賃金で、給料の上がる人・下がる人

山口俊一/著

中央経済社

同一労働同一賃金によって、企業の人事・賃金システムはどのように変わるのか、著者の長年にわたる 人事コンサルタントとしての知識・経験に基づき考察する。

379.7/ス/ 身の丈にあった勉強法

菅広文/著

幻冬舎

「偏差値30アップの勉強法」は、ほとんどの人にとって意味がない。「正しい勉強法」を知らないと、人生で損をする! ロザン・ 菅が、高性能勉強ロボの宇治原を観察し続けて確信した、究極の学習術を紹介する。

自然科学•医学

469.9/サ/ 日本人の源流

斎藤成也/著

河出書房新社

アフリカを出た人類の祖先は、いかにして日本列島にたどりつき「ヤポネシア人」となったのか? 縄文人の DNA の特異性とは? 日本人の源流を、DNA の情報にもとづく最新の研究結果を中心に解き明かす。

480.4/ヒ/ 日高敏隆 ネコの時間

日高敏隆/著

平凡社

チョウ、ネコ、人間…。 自然の世界は生き物たちの不思議と知恵でいっぱい! 日本の動物行動学の第一人者として活躍した 日高敏隆の、ユーモアと発見に満ちた随想を収録。 もっと日高敏隆を知りたい人のためのブックガイド付き。

491.3/イ/ **あなたの脳のはなし**

デイヴィッド・イーグルマン/著

早川書房

誰もが関心を持ちながら、脳ほど誤解されているものもない。脳神経科学の世界的権威である著者が、自ら監修・出演したテレビ番組の豊富な図版・写真を駆使して、心と意識をめぐる驚きの事実を講義形式でわかりやすく説く。

技術、家政

537.1/小 きちんと知りたい!軽自動車メカニズムの基礎知識

橋田卓也/著

日刊工業新聞社

日本独自の規格である軽自動車は、大きな成長を遂げ、今やなくてはならない存在となっている。軽自動車の概要、歴史的 経緯、しくみ、メカニズム、安全運転支援システムの特徴などを図やイラストを交えてわかりやすく紹介する。

559.7/オ/ 届かなかった手紙

大平一枝/著

KADOKAWA

原子爆弾開発の契機を作った科学者、レオ・シラード。一方で彼は、日本への原爆投下に反対する科学者 70 人の署名をトルーマン大統領宛てに送っていた-。シラードを知る人物や署名した科学者を訪ね、彼らの心の物語を追う。

産業

農業を繋ぐ人たち 611.7/ユ/

湯川真理子/著

西日本出版社

後継者のいない希少な独活を未来へ繋ぐ、若手だけで出荷組合を作る…。毎日放送の生活情報番組「ちちんぷいぷい」で 農業者を取材し続ける放送作家・湯川真理子が、「農業で生きていく」と決めた人達のリアルな物語を紹介。

685.9/タ/ 宅配クライシス 日本経済新聞社/編 日本経済新聞出版社

ヤマトの現場が悲鳴を上げた! 日本中を驚かせた「宅配クライシス」報道を時系列で追い、混乱の真相 に迫る。ヤマトホールディングス社長、アマゾンジャパン社長らのインタビューも収録。

芸術

756.8/セー ゼロから分かる!5000円からの骨董入門 尾久彰三/監修

世界文化社

骨董入門者に向けて、5000円から10万円以上まで、値段に見合った骨董の見つけ方、目のつけどころを解説す る。骨董の見どころと楽しみ方、古美術研究家と行く骨董市、初心者にも優しい骨董店リストなども収録。

778.7/オ/ 誰も語らなかったジブリを語ろう

「風の谷のナウシカ」から「思い出のマーニー」まで、スタジオジブリの劇場公開作21本を異才監督・押井守が語り 尽くす、痛快&ディープなインタビュー。「これまでのジブリ、これからのアニメーション」にも言及する。

文学論

910.2/エ/ 江戸川乱歩と横溝正史 中川右介/著

集英社

日本の探偵小説を牽引した2大巨頭、江戸川乱歩と横溝正史。太陽と月にも喩えられる日本文学史上稀な関係 はどのように生まれ、育まれたのか。2人の大作家の歩みを辿りながら日本の出版史をも描き出す対比評伝。

910.2/// うそつき 夫・野坂昭如との 53 年 野坂暘子/著

新潮社

21歳の元タカラジェンヌが飛び込んだのは、想像もつかないような、波瀾万丈の結婚生活だった…。直木賞受賞 前の日々から最晩年まで、夫人が明かす、知られざる野坂昭如の素顔。

日本文学一小説

913.6/アサ/ 人間タワー

朝比奈あすか/著

文藝春秋

わたしは人間タワーには反対だけど、人間タワーをやらないことにも反対-。とある東京の小学校を舞台に、人間タ ワーをめぐる人間模様を複数視点から描いた物語。『別冊文藝春秋』連載に加筆し書籍化。

913.6/イサ/ クリスマスを探偵と 伊坂幸太郎/文

舞台はドイツ。 探偵カールがクリスマスの夜に出会った、謎の男とは…? 伊坂作品のエッセンスすべてが凝縮さ れた、心温まる聖夜の奇跡の物語。マヌエーレ・フィオールによる幻想的で抒情的な雰囲気の挿し絵も収録。

913.6/ウブ・/ 戦の国 冲方丁/著

神にならなければ、通れぬ道がある-。桶狭間から大坂の陣まで、日ノ本が造られた激動の55年を、織田信長、 上杉謙信、明智光秀、大谷吉継、小早川秀秋、豊臣秀頼の六傑の視点から描く。連作歴史長編。

913.6/オオ/ 覆面作家 大沢在昌/著

デビューしてまもなく文学賞の候補になる実力の持ち主の覆面作家が、「私」のファンだという-。 著者を 彷彿とさせる「私」が語り手の短編集。『小説現代』掲載ほか単行本収載作など全8編を収録。

913.6/オガ・/ キラキラ共和国 小川糸/著

幻冬舎

夫からの詫び状、憧れの文豪からの葉書、大切な人への最後の手紙…。 伝えたい思い、聞きたかった 言葉、承ります。鎌倉を舞台にした代書屋の物語。「ツバキ文具店」の続編。

913.6/キシ/ ミステリークロック 貴志祐介/著

KADOKAWA

希少な時計の数々が時を刻む晩餐会で、主催者の女流作家が死亡する。状況は事故死。だが、防犯 探偵・榎本径がひとつの時計を目にしたとき、事故は殺人へと変貌する…。表題作ほか全4作を収録。

西郷どん! 前編・後編 913.6/ハヤ/

林真理子/著

下級武士の家に生まれ、貧しいながらも家族や友に恵まれて育ち…。激動の幕末を駆け抜け、新たな時代をつく った西郷隆盛の生涯を描く。2018年大河ドラマ原作小説。

913.6/ハラ/ たゆたえども沈まず

原田マハ/著

幻冬舎

売れない画家のフィンセント・ファン・ゴッホは、パリにいる画商の弟テオドルスの家に転がり込んでい た。そんな二人の前に、浮世絵を売りさばく日本人、林忠正が現れ…。

オペレーション Z 913.6/マヤ/

真山仁/著

新潮社

日本の国家予算を半減せよ! 迫り来るデフォルトを回避するため、不可能なミッションに挑む男たちを 描くエンターテインメント長編。

913.6/ミヤ/ 呉漢 上·下 宮城谷昌光/著

中央公論新社

貧家に生まれるが、運命の変転により、天下統一を目指す劉秀の将となった呉漢。 時代が生んだ最高 の知将・呉漢の生涯を描く。

僕はロボットごしの君に恋をする 913.6/ヤマ/

山田悠介/著

河出書房新社

2060 年、東京。人型ロボットを使った国家的極秘プロジェクトが進む中、プロジェクトメンバーの健が想いを寄せる咲の勤務先 にテロ予告が届く。目的を達するために、暴走する研究者の狂気。健はテロを防ぎ、咲を守れるのか?

913.6/ョネ/ 米澤穂信と古典部 米澤穂信/著

KADOKAWA

〈古典部〉シリーズ 15 年の歩みを語った米澤穂信のインタビューをはじめ、北村薫、恩田陸らとの対談、古典部メンバーの本 棚等を収録。〈古典部〉新作小説も掲載する。進化を続けるミステリ作家と〈古典部〉のすべてがわかる!

914.6/ウエ/ 物語と歩いてきた道 上橋菜穂子/著

偕成社

「精霊の守り人」「鹿の王」の作者・上橋菜穂子の、単行本未収録のインタビューやスピーチ、エッセイ、書店での フェアのために選書した約700冊のリストを集成。壮大な物語を描く作家のたどってきた道のりが浮かび上がる。

ブラックボックス

伊藤詩織/著

信頼していた人物からの、思いもよらない行為。しかし、その事実を証明するには、あらゆるところに"ブラックボッ クス"があった…。レイプ被害に遭ったジャーナリストが、自ら被害者を取り巻く現状に迫るノンフィクション。

タ ン プ ラ リ ー 実 施 中

12月23日(±)まで スタンプラリー「清流の国ぎふの図書館をめぐろう」

岐阜県公共図書館協議会に加盟する36館で、スタンプラリーを開催中です。

各図書館で配布されている、案内リーフレットに紹介されている図書館の中から、気になる図書館を訪 れてください。※スタートとゴールは地元の図書館など貸出カードをお持ちの図書館へ!

案内リーフレットのスタンプシートに、図書館のカウンターでスタンプを押してもらい、4 個集めると プレゼントがもらえます。(全館合計で先着 5,000 名)

示 の ご 内

■11/25(土)~12/10(日)■

可児市人権啓発センター、人づくり課合同人権展 (本館1階)

12月4日から10日は人権週間です。人権とは自分が自分ら しく生きるための権利。誰もが身近にある人権問題について この機会に考えてみませんか。

■12/13 (水)~27 (水)■ クリスマスとお正月を迎えよう展 (本館1階)

今年もあとわずかです。楽しいクリスマス とお正月を迎えるためのヒントになる本を ご紹介します。

開館時間【本館】 平日 10:00~19:00、土日祝 10:00~17:00 【分館】全日 9:00~17:00

|休館日| 毎週月曜日(12月 4,11,18,25)

年末年始(12月28日~1月4日)

携帯用 サイト



「図書館だより」2017年12月号

編集:長谷川(本館) 電話(0574)62-5120 発行:可児市立図書館 資料検索・予約は http://www.kani-lib.jp/ をどうぞご利用ください。 今年もありがとうございました。皆様よいお年をお迎えください。